

## 「英語コミュニケーションⅢ」単元ごとの指導と評価の計画

愛知県立小牧高等学校

教諭 浅井 秀友

### 1 日時・実施場所

〈省略〉

### 2 学 級

〈省略〉

### 3 学級観

〈省略〉

### 4 教 材

〈省略〉

### 5 単元の目標

先進国には安全な水道水があるにもかかわらず、ペットボトル入り飲料水を大量に生産している現状について聞いたり読んだりして、概要や要点、詳細を捉えるとともに、その内容や言語材料を活用して自分の考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合うことができる。

### 6 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	日常的な場面での会話を聞き、話し手の意図や内容を理解できる。
読むこと	文章を読んで複数の段落間のつながりや文章全体の構成を理解できる。
話すこと [発表]	日常的な話題や、社会的な話題について、理由や具体例を交えながら、英語で説明できる。また既習事項を用いて自分の考えを相手に話して伝えることができる。
話すこと [やり取り]	身近なことについて自分の考えを理由とともに伝え、簡単な英語で相手とやりとりできる。
書くこと	身近なことについて自分の考えや意見を100語程度で書くことができる。

### 7 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	・意見や主張を述べるために必要な語彙や表現等を理解している。 ・意見や主張などを理由や具体例とともに論理の構成や展開を工夫して書いて伝える技能を身に付けている。	環境問題について、読み手の関心を引くことができるように、意見や主張などを理由や具体例とともに論理の構成や展開を工夫して書いて伝えている。	環境問題について、読み手の関心を引くことができるように、意見や主張などを理由や具体例とともに論理の構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。

## 8 パフォーマンステスト

○領域

書くこと

○内容

身の回りの環境問題に対して自分たちができることを、理由とともに書いて伝える。

○「知識・技能」「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：自分の取り上げた環境問題が引き起こす問題について述べている。

条件2：どのような対策を行うかを二つ以上述べている。

条件3：形式主語構文を使った文を一つ以上入れている。

○採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	条件3を満たした上で、多様な語彙や表現を使いながら、理解しやすい英文を用いて書いている。	条件1、2を満たした上で、意見や考えを詳しく書いて伝えている。	三つの条件を満たした上で、100語以上の英語で自分の考えを理由や具体例とともに詳しく述べて伝えようとしている。
b	条件3を満たした上で、理解に支障のない程度の英文を書いている。	条件1、2を満たして書いて伝えている。	三つの条件を全て満たした上で100語以上の英語で伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

## 9 単元の指導計画 ※網掛けは記録に残す評価の場面。

(聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと [やり取り]、発…話すこと [発表]、書…書くこと)

時間	ねらい (■)、言語活動 (丸数字)	内容のまとめり					生徒の活動状況を見届ける観点 (【 】)・方法 (○)
		聞	読	や	発	書	
1	<p>■単元の目標を理解するとともに、パフォーマンステストについての概要を把握する。</p> <p>■単元内容の背景となる知識を活性化する。</p> <p>①授業者による質問に英語で答える。</p> <p>②飲み水をどのように手に入れているか、理由とともにペアで確認する。</p> <p>③本文全体を読み、ワークシートの問いに答える。</p> <p>④必要に応じて文法事項を確認する。</p> <p>⑤ペットボトル飲料水以外の環境問題についてペアで考える。</p>						<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。</p> <p>【思】概要や要点を適切に捉えているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>

2	<p>■各パートの内容を、リテリングシートを使いながらペアで伝え合う。</p> <p>①リテリングシートを参考にしながら相手に本文の内容を伝える。</p> <p>②ペアを変えながら同じ活動を繰り返す。</p>					<p>【知】論理構成上必要な語彙・表現を適切に使用しているか。</p> <p>【思】論理性に注意して相手に伝えているか。</p> <p>【主】英語を使って相手に伝えようとしているか。</p> <p>○活動の観察</p>
3 4	<p>■身の回りの環境問題について自分ができることを英語でまとめる。</p> <p>①自然や環境問題でよく使われる語彙について確認する。</p> <p>②文章の構成を考え、ファーストライティングに取り組む。</p> <p>③グループでファーストライティングを読み合い、感想を書く。</p> <p>④セカンドライティングに向けての改善点を考える。</p>					<p>【知】語句や表現を適切に使用しているか。</p> <p>【思】相手に理解しやすいような文章構成になっているか。</p> <p>【主】主体的に環境問題について調べて、まとめようとしているか。</p> <p>○活動の観察</p> <p>○Essay Process Sheet（資料1）</p>
5	<p>パフォーマンステストと振り返り</p> <p>■ファーストライティングを修正し、セカンドライティングをよりよいものにする。</p> <p>①必要に応じて、効果的な表現方法をクラスで共有する。</p> <p>②ファーストライティングの改善点を確認してセカンドライティングに取り組む。</p> <p>③ペアで交換し、お互いの文章を読み合う。</p> <p>④振り返りシートを活用しながら、次回のパフォーマンステストに向けて自らの課題を考える。</p>					<p>【知】適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】論理的な構成になっているか。</p> <p>【態】課題を的確に捉え、改善策を考えようとしているか。</p> <p>○活動の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○振り返りシート（資料2）</p>
後日	定期考査					知思





## Essay Process Sheet (EPS) 振り返りシート

●今回の「結果」を表に記した後、質問に答え、これからの英語学習に活かしてください。

Topic

身の回りの環境問題に対して自分ができることについて、理由とともに 100 語以上の英語でまとめなさい。

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件 1：自分を取り上げた環境問題が引き起こす問題について述べている。

条件 2：どのような対策を行うかを二つ以上述べている。

条件 3：形式主語構文を使った文を一つ以上入れている。

○採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	条件 3 を満たした上で、多様な語彙や表現を使いながら、理解しやすい英文を用いて書いている。	条件 1、2 を満たした上で、意見や考えを詳しく書いて伝えている。	三つの条件を満たした上で、100 語以上の英語で自分の考えを理由や具体例とともに詳しく述べて伝えようとしている。
b	条件 3 を満たした上で、理解に支障のない程度の英文を書いている。	条件 1、2 を満たして書いて伝えている。	三つの条件を全て満たした上で 100 語以上の英語で伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

1 単元の学習を通してうまくできるようになったこと

2 うまくできなかったこと

3 うまくできるために今後取り組みたいこと

4 その他の感想

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_番 氏名\_\_\_\_\_

## 実践報告

### 1 単元構想

「コミュニケーション英語Ⅲ」の授業では、教科書の内容に関連したトピックについて生徒の考えや意見を英語で発表する形のパフォーマンステストを各学期2回実施している。今回は飲料水をふだんのように手にしているかという話題からペットボトルの削減に向けて各国の取組について学習し、自分が環境問題に対してできることを英語で書いてまとめる活動につなげた。文章構成や着眼点がよい作品はクラス全体で共有し、生徒が次の活動で生かせるように工夫した。

なお、この実践は、実際の授業を終えた後、新学習指導要領に当てはめた場合を想定して作成したものである。

### 2 実践と考察について

#### (1) プロセスライティングについて

トピックが個人に関すること（あなたの好きな〇〇は何ですかなど）である場合は書きやすく、自分の意見やその理由を自由に書くことができる。一方、今回のように社会的な話題（身の回りの環境問題に対して自分ができることについて、その理由を含めて答えることなど）の場合、生徒の書いた文章に類似した内容が多くあり、生徒の個性が反映されにくいものになる傾向があることが分かった。自分の考えをまとめる場合、英語の表現力だけでなく、そのトピックについての知識が豊富にあるかどうかで内容に大きな違いが表れる。このため、英語で文章を書き始める前にマインドマップを使って十分に情報を整理することが重要であると改めて感じた。

ファーストライティングを終えた後、グループでお互いの文章を読み合い、ワークシートに感想を書く時間を設けた。生徒の中には、文章の内容よりも文法的な誤りについて指摘し合う姿も見られた。フォームに焦点を当てるのであれば、パフォーマンステスト以外のパターンプラクティスでも十分な確認ができるため、内容をよりよくするためには何が必要かについて、生徒同士で話し合える雰囲気をつくる必要がある。

今回パフォーマンステストを行った単元のキーセンテンスが形式主語構文であったため、文章の中に形式主語構文を1回以上使用することを条件の一つとした。使える構文を意識して使うことは、構文を使えるようにするためには役に立つが、文章の中では不自然な表現になることも多い。そのため、構文の使い方を事前に例文を通して十分に学習して、内容を基にした評価を重視した方がよいと感じた。

セカンドライティングを実施する前に、自分の考えをより具体的に、そして説得力を高めるために必要な情報を、タブレット端末を用いて検索することを促した。文章の内容が深まった生徒も多くいた一方、調べた内容をどのように英語で表現するかに苦慮し、伝えたいことが分かりにくくなってしまいう生徒もいた。

#### (2) 評価について

##### ア 「知識・技能」について

ライティング活動は「相手に具体的に英語で伝える」ことを目標にしている。a評価の「多様な語彙や表現」を使えるように、日頃から授業で学んだ表現をアウトプットする活動を多く取り入れる必要がある。また文法的な誤りも多く見られたため、共通する多くの生徒の誤りをファーストライティング後に

共有するとよいと考えた。

#### イ 「思考・判断・表現」について

多くの生徒が提示した三つの条件を満たしていた。a 評価の「詳しく書いて伝えている」部分は、事前にタブレット端末を使って原因や根拠について調べる活動を行った。既習事項としてグラフや表の増減を英語で表現する方法を学習していたため、可能であれば実際の数値を取り入れてまとめることを求めたが、実際にはそこまでできた生徒は一部にとどまった。

#### ウ 「主体的に学習に取り組む態度」について

取り組んだすべての生徒が 100 語以上の英語で自分の考えをまとめることができた。3 年生の 4 月当初と比べると、多くの生徒がよりよい成果を上げることができた。プロセスライティングでは、活動ごとに生徒の到達度を確認することができるが、年間のワークシートをファイルに綴じてポートフォリオの形にすることで、自分がどれだけ成長したかを確認することができ、英語学習に対する次年度のモチベーションにもつながると考える。

### 3 「学びに向かう力」の育成について

パフォーマンステストを定期的に行うことにより、生徒のふだんの授業に対するモチベーションは上がっていると実感している。ふだんの授業の目標が明確になることで、学びに向かう姿勢も変わってきたように見て取れる。生徒が知りたいことや伝えたいことをふだんの授業の中でどのように英語を使った言語活動に結び付けていくかが授業者の役割だと強く感じる。また、パフォーマンステストの評価は生徒の欠点を見つけるためのものではなく、何ができるようになったかを確認できる場にするのが大切である。次年度以降の課題としては、今回の評価方法を見直すことで、評価の妥当性と信頼性を高めることと、また、ICT を適切に利用して業務を効率化することで、英語科の教員が行う授業実践などの情報を共有して、他の教員にも活用してもらいやすい環境をつくることを目指したい。

### 4 参考文献

・ *Revised BIG DIPPER English Communication III*. 数研出版. 2018